



# 物流ニッポン

2008年(平成20年)

## 8 | 25 (月)

発行/月曜日・木曜日 第3158号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

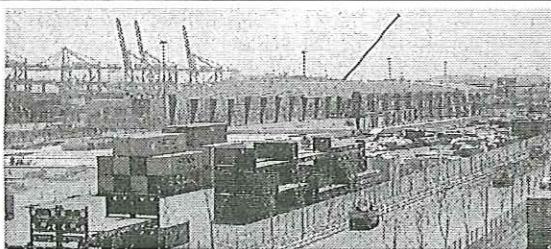
©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

### B I D C

## 釜山新港に倉庫建設

### 来年2月の完成めざす

【武原頭】福岡運輸シテムネット(山口善久社長、福岡市博多区)と韓国の大宇ロジステイク(安勇南社長、ソウル市)が出資する日韓合弁企業「釜山国際物流」(B I D C、安勇南社長、釜山市)では、来年二月の完成を目指し、釜山新港の後背地に三万六千九百平方メートル(床面積)の物流倉庫を建設している。B I D Cの日本人、B I D Cジャパン(東京都千代田区)の山口善久社長は、「大きな柱がなく、荷役作業が飛躍的に向上する。釜山新港の後背地として最大規模になると話す。入居企業は多様なニーズに対応可能なオーダーメイドで、食料品や雑貨、自動車関連部品など幅広い貨物を取り扱う。B I D Cでは、釜山新港の後背地に十萬三千五百平方メートルの用地を確保しており、昨年六月から一般倉庫、C F S (コンテナ・フレイト・ステーション) 倉庫など、物流倉庫を次々と建設。国内から欧米、東アジア、ロシアの中継拠点として機能している。



一方、日本向けの貨物

釜山新港の後背地に建設中の倉庫に提供写真  
 の保税、保管、流通加工、混載、配船など、日本各港へワンストップサービスを展開中。鉄道と船舶による国際複合一貫輸送を駆使し、輸送の合理化、最終仕向け地までのダイレクト輸送、荷主ニーズへの対応を図る。  
 釜山新港は地理的ポテンシャルの高さなど様々なインセンティブがある。既に、二〇〇六年から六パーセントが稼働、十一年までに計三十パーセントを建設予定で、韓国政府による活発な企業誘致活動が続いている。